

9 農薬耐性菌検定実施状況

- (1) 対象病害：灰色かび (*Botrytis cinerea*)
- (2) 検定薬剤：菌糸生育度調査………プロシミドン剤、フルジオキシニル剤、アゾキシストロビン剤、ピリベンカルブ剤
胞子発芽阻害度調査…メパニピリム剤、ペンチオピラド剤
- (3) 対象作物、検定法および結果

作物	検定結果 (耐性菌株/検定株数)	検定法	防除効果
トマト	プロシミドン剤 中度・高度耐性 0% (0/14) メパニピリム剤 感受性低下 0% (0/14) ペンチオピラド剤 感受性低下 28.6% (4/14) フルジオキシニル剤 耐性 0% (0/14) アゾキシストロビン剤 耐性 100% (14/14) ピリベンカルブ剤 耐性 21.4% (3/14)	培地：メパニピリム剤 FGA平板培地 ペンチオピラド剤 YGA平板培地 アゾキシストロビン剤 ピリベンカルブ剤 SHAM 1 mM添加PDA平板培地 上記以外の薬剤 PDA平板培地 培養温度：20℃ 培養時間：メパニピリム剤 96時間 ペンチオピラド剤 168時間 上記以外の薬剤 48時間	ペンチオピラド剤に感受性低下を示す菌株は昨年度より増加した。 アゾキシストロビン剤およびピリベンカルブ剤に耐性を示す菌株は昨年度より増加した。 プロシミドン剤、メパニピリム剤、フルジオキシニル剤の耐性菌は認められなかった。
イチゴ	プロシミドン剤 中度耐性 41.5% (17/41) 高度耐性 2.4% (1/41) メパニピリム剤 感受性低下 82.9% (34/41) ペンチオピラド剤 感受性低下 92.7% (38/41) フルジオキシニル剤 耐性 0% (0/41) アゾキシストロビン剤 耐性 85.4% (35/41) ピリベンカルブ剤 耐性 7.3% (3/41)	薬剤濃度： プロシミドン剤 5ppm メパニピリム剤 3ppm ペンチオピラド剤 1ppm フルジオキシニル剤 0.2ppm アゾキシストロビン剤 100ppm ピリベンカルブ剤 100ppm 測定項目：菌そう直径 判定基準： 下記の各薬剤濃度における菌そう生育の有無 プロシミドン剤 中度耐性 80%未満※ " 高度耐性 80%以上 ※菌そう直径を薬剤無添加培地と比較 メパニピリム剤 感受性低下 3ppm ペンチオピラド剤 感受性低下 1ppm フルジオキシニル剤 耐性 0.2ppm アゾキシストロビン剤 耐性 100ppm ピリベンカルブ剤 耐性 100ppm	プロシミドン剤に中等度および高等度耐性を示す菌株は昨年度より増加した。 アゾキシストロビン剤およびピリベンカルブ剤に耐性を示す菌株は昨年度より増加した。メパニピリム剤およびペンチオピラド剤の感受性低下菌は昨年度より増加した。 フルジオキシニル剤の耐性菌は認められなかった。
花き類	プロシミドン剤 中度耐性 8.0% (2/10) 高度耐性 0% (0/10) メパニピリム剤 感受性低下 10.0% (1/10) ペンチオピラド剤 感受性低下 50.0% (5/10) フルジオキシニル剤 耐性 0% (0/10) アゾキシストロビン剤 耐性 40.0% (4/10) ピリベンカルブ剤 耐性 10.0% (1/10)	プロシミドン剤 中度耐性 80%未満※ " 高度耐性 80%以上 ※菌そう直径を薬剤無添加培地と比較 メパニピリム剤 感受性低下 3ppm ペンチオピラド剤 感受性低下 1ppm フルジオキシニル剤 耐性 0.2ppm アゾキシストロビン剤 耐性 100ppm ピリベンカルブ剤 耐性 100ppm	プロシミドン剤に中等度耐性を示す菌株は昨年度より増加し、高等度耐性を示す菌株は減少した。 ペンチオピラド剤の感受性低下を示す菌株は昨年度より増加し、メパニピリム剤では減少した。 アゾキシストロビン剤耐性菌の割合は昨年度より減少し、ピリベンカルブ剤耐性菌の割合は増加した。 フルジオキシニル剤の耐性菌は認められなかった。

- (4) 指導概要
- 施設の環境改善や系統の異なる薬剤のローテーション散布を徹底し、耐性菌の発生を抑制する。新規の薬剤で効果の高いものを積極的に取り入れていく。近年、花き類でフルジオキシニル剤耐性菌が確認されてきており、今後も耐性菌の種類とその発生推移を地域、ほ場レベルで詳細に調査する必要がある。